

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するかが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。
*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
- d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。
たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。
また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。
また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ 現代文（評論）採点基準（合計40点）

問一（各2点） (1) 大抵 (2) 超然 (3) 象徴 (4) 信奉 (5) 背反

問二 10点

（模範解答例）

A ①〇一点

A ②〇一点

現代の日本社会では、

特に若い世代に他者の承認を満たすために自由を犠牲にする

傾向が強いが、

B ①〇一点

狭い人間関係の中で、濃密で膨大なわりには関係性の希薄なやりとりをしながら、相

B ②〇一点

手に嫌悪され、批判され、無視されるのを怖れる承認不安があるため、

C ①〇一点

C ②〇一点

C ③〇一点

場の空気を読んで相手に同調し、

相互に承認を獲得し、維持するための

価値のない

X へ分析 〇一点

ゲームの行動となつてしまった

D 〇一点

Y へ総合 〇一点

コミュニケーションのこと。(10点)

【構造点】

・Xは、傍線部を説明するための前提条件Aを、〈因果関係〉をなす〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析 〇一点〉して説明する構造への評価である。ここでは、A、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加

X へ分析 〇一点 Aの要素+Bの要素+Cの要素 〇一点

・Yは、条件B、Cを条件Dに〈総合 〇一点〉する構造への評価である。ここでは、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あり、かつ条件Dがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加

Y へ総合 〇一点 Bの要素+Cの要素+D 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士で、また条件A、B、C内では要素同士でも、原則的に部分採点可能。(8点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、要素と条件を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「現代の日本社会では、特に若い世代に他者の承認を満たすために自由を犠牲にする傾向が強いが、」(2点)

※ 傍線部を説明するための前提条件。

① 「現代の日本社会では、」の要素に1点。

○ 「日本の現代社会では、」現代日本の社会状況では、」などでも可。

× 「現代の日本社会」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

② 「特に若い世代に他者の承認を満たすために自由を犠牲にする傾向が強いが、」の要素に1点。

○ 「他者の承認を得ようとして自由を犠牲にする傾向が、若い世代を中心に見られるが、」若い世代を中心に、自己の自由を抑圧して他者の承認を獲得しようとする傾向が強いが、」などでも可。

× 「若い世代中心」「他者の承認を満たすために自由を犠牲にする」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

B 「狭い人間関係の中で、濃密で膨大なわりには関係性の希薄なやりとりをしながら、相手に嫌悪され、批判され、無視されるのを怖れる承認不安があるため、」(3点)

※ Aを説明するための〈因果関係〉の〈因〉の条件。

① 「狭い人間関係の中で、濃密で膨大なわりには関係性の希薄なやりとりをしながら、」の要素に1点。

○ 「狭い人間関係の場で、濃くて膨大だが希薄な関係性をやりとりしながら、」
「範囲の限られた人間関係にあって、濃密で大量だが中身の薄い関係性をやりとりしつつ、」などでも可。

× 「狭い人間関係」「濃密で膨大なわりには関係性の希薄なやりとり」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「相手に嫌悪され、批判され、無視されるのを怖れる承認不安があるため、」の要素に1点。

○ 「相手に嫌悪、批判、無視されることを恐れる承認不安があるので、」「相手から嫌われ、批判され、無視されるのを怖がる承認不安のために、」などでも可。

× 「相手に嫌悪され、批判され、無視されるのを怖れる」「承認不安」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「場の空気を読んで相手に同調し、相互に承認を獲得し、維持するための価値のないゲームの行動となってしまった」(3点)

※ Aを説明するための〈因果関係〉の〈果〉の条件。

① 「場の空気を読んで相手に同調し、」の要素に1点。

○ 「場の空気に左右されて同調傾向を強め、」場の空気に同調しようとし、「などでも可。

× 「場の空気への同調」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点

② 「相互に承認を獲得し、維持するための」の要素に1点。

○ 「お互いが承認を獲得し、維持し合う」「相互に承認し、維持していくための」などでも可。

× 「相互に承認を獲得し、維持する」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「価値のないゲームの行動となってしまった」

○ 「中身のないゲームとなった」「無価値のゲームと成り果てた」などでも可。

× 「価値のないゲーム」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

D 「コミュニケーションのこと。」(1点)

※ B、Cをまとめる条件。

× 「コミュニケーション」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問三 9点

(模範解答例)

A〇一点

ラカンは、

B①〇一点

B②〇一点

一方でヘーゲルとコジエーブの影響を受けて、

人間の欲望が承認欲望であることを認

めながら、そのネガティブな面のみを強調しており、

C①〇一点

C②〇一点

他方でフロイトの強い影響下にある精神分析医であることから、

人間の欲望の無意識

X〈分析〓分けること〉〇一点
性を強調して、

D①〇一点

D②〇一点

結局無意識の最終的な原動力であるものは、

主体の他者による承認の欲望として以外

の仕方では明確化できないと述べるに至っているから。

Y〈総合〓まとめること〉〇一点 (9点)

【構造点】

・Xは、筆者による傍線部のまとめ方を説明するために、Aの考え方を、B、Cの〈矛盾〉しない二条に〈分析〓分けること〉する構造への評価である。ここではAがあり、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立していると判断し一点加点。

X〈分析〓分けること〉 A+Bの要素+Cの要素 〇一点

・Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉をして、理由説明の結論とする構造への評価である。ここでは、B、C、Dの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加点。

Y〈総合〓まとめること〉 Bの要素+Cの要素+Dの要素 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、C、D内では要素同士においても、原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、要素、条件を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「ラカンは、」(1点)

- ※ 筆者が傍線部のように述べる理由を説明するために立てるべき〈主体〉の条件。
- × 「ラカン」の成分が入っていないければ×0点。

B 「一方でヘーゲルとコジエーブの影響を受けて、人間の欲望が承認欲望であることを認めながら、そのネガティブな面のみを強調しており、」(2点)

- ※ Aのあり方を説明する一方の条件。

① 「一方でヘーゲルとコジエーブの影響を受けて、」の要素に1点。

- 「一面でヘーゲルとコジエーブの影響下にあるために、」ヘーゲルとコジエーブの強い影響を受けていたため、」などでも可。

- × 「ヘーゲルとコジエーブの影響」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「人間の欲望が承認欲望であることを認めながら、そのネガティブな面を強調しており、」の要素に1点。

- 「人間の欲望を承認欲望であると認めつつ、そのネガティブな面を強調して、」人間の欲望を承認欲望と規定しながら、ネガティブな面にこだわり、」などでも可。

- × 「人間の欲望⇨承認欲望」「ネガティブな面の強調」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「他方でフロイトの強い影響下にある精神分析医であることから、人間の欲望の無意識性を強調して、」(2点)

- ※ Aのあり方を説明する、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

① 「他方でフロイトの強い影響下にある精神分析医であることから、」の要素に1点。

- 「他面でフロイトに影響された精神分析医であったために、」他方でフロイトの強い影響を受けていたので、」などでも可。

- × 「フロイトの影響」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「人間の欲望の無意識性を強調して、」の要素に1点。

- 「人間の欲望の無意識性に焦点を据え、」人間の欲望の根拠を無意識性に求め、」などでも可。

- × 「人間の欲望」「無意識性の強調」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

D 「結局無意識の最終的な原動力であるものは、主体の他者による承認の欲望として以

外の仕方では明確化できないと述べるに至っているから。」(2点)

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「結局無意識の最終的な原動力であるものは、」の要素に1点。

○ 「要するに無意識の最終的な原動力は、」つまるどころ、無意識の究極的な原動力とは、」などでも可。

× 「無意識の最終的な原動力」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「主体の他者による承認の欲望として以外の仕方では明確化できないと述べるに至っているから。」の要素に1点。

○ 「主体による他者の承認への欲望としてしか明瞭化できないと述べているから。」
「他者の承認を求める主体の欲望とすることで初めて明らかかなものとなると述べているから。」などでも可。

× 「主体の他者による承認の欲望」「述べている」の二成分のニュアンスがそろっていないと×0点。

問四 11点

(模範解答例)

A①〇一点

A②〇一点

A③〇一点

自己中心的にふるまう

「自己意識の自由」の中にいた

未熟な段階の人間が、

B①〇一点

B②〇一点

さまざまな欲望や感情を抑制して、

「他者の承認」を得ることが不可欠であり、また

B③〇一点

さもなければ自分の正しさも存在価値も確信できないと考えるに至って、

Xへ分析〓分けること〓〇一点

C①〇一点

C②〇一点

より多くの人が求めるような行為や作品を目指すようになるとき、

自由と承認の葛藤

C③〇一点

は止揚され、真の自由を手にすることができるようになるということ。

Yへ弁証法〓創造すること〓〇一点(11点)

【構造点】

・Xは、B内部で、 $\langle B①+B② \rangle$ とB③を、 \langle 因果関係 \rangle にある \langle 矛盾 \rangle しない二成分に \langle 分析〓分けること \rangle する構造への評価である。ここでは、B①、B②の内の少なくとも一つの要素と、B③がそろってれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加点(尚、この構造点は解答解説には組み込まれていない)。

Xへ分析〓分けること〓

$\langle B①+B② \rangle$ の少なくとも一つの要素+B③

〇一点

・Yは、条件(非契機)A、Bの \langle 矛盾 \rangle を \langle 止揚 \rangle して、条件(非契機)Cを達成する \langle 弁証法〓創造すること \rangle の構造への評価である。ここでは、条件A、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして一点加点。

Yへ弁証法〓創造すること〓 Aの要素+Bの要素+Cの要素

〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また各条件内でも要素同士において、原則的に部分採点可能。
(9点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「自己中心的にふるまう」『自己意識の自由』の中にいた未熟な段階の人間が、(3点)

※ 傍線部を説明する〈弁証法〉の一方の条件⇨契機。

① 「自己中心的にふるまう」の要素に1点。

○ 「自己中心的な」「自己中心的に行動する」などでも可。

× 「自己中心的」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 『自己意識の自由』の中にいた「」の要素に1点。

○ 『』自己意識の自由』を謳歌していた「」『自己意識の自由』のままに行動していた「」などでも可。

× 『』自己意識の自由』のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「未熟な段階の人間が、」の要素に1点。

○ 「成熟していない人間が、」「未熟なままの人間が、」

× 「未熟な段階の人間」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「さまざまな欲望や感情を抑制して、『他者の承認』を得ることが不可欠であり、ま

たさなければ自分の正しさも存在価値も確信できないと考えるに至って、」(3点)

※ 傍線部を説明する〈弁証法〉の、Aとは〈矛盾〉する条件⇨契機。

① 「さまざまな欲望や感情を抑制して、」の要素に1点。

○ 「自分の目の前にある自由を抑制して、」「いろいろな欲や情緒を抑圧して、」などでも可。

× 「欲望、感情、眼前の自由」のいずれかのニュアンスの成分、及び「抑制」のニュアンスの成分がそろっていないければ×0点。

② 『他者の承認』を得ることが不可欠であり、」の要素に1点。

○ 『他者の承認』を抜きにすることはできず、「他者の承認が必要なものであり、」などでも可。

× 「他者の承認」「不可欠」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

③ 「またさなければ自分の正しさも存在価値も確信できないと考えるに至って、」の要素に1点。

○ 「そうでなければ自分の存在価値を確信できないと思に至り、」「さもなければ自分の正しさを信じられぬと考えて、」などでも可。

× 「さもなければ(非)「他者の承認を得なければ」「自分の存在価値あるいは正しさ」「確信できないと考える」の三成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「より多くの人を求めるような行為や作品を目指すようになるとき、自由と承認

の葛藤は止揚され、真の自由を手にすることができるようになるということ。」「(3点)

※ 傍線部を説明する〈弁証法〉の第三の条件⇨契機だが、A、Bの〈矛盾〉を〈止揚〉

して達成された次元の内容となる。

- ① 「より多くの人が求めるような行為や作品を目指すようになるとき、」の要素に1点。
- 「より普遍的な行為や作品を目標とする時に、」「より多くの人がともに求めるような作品などを目指すとき、」などでも可。
- × 「より多くの人が求める」「行為あるいは作品を目指す」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- ② 「自由と承認の葛藤は止揚され、」の要素に1点。
- 「自由と他者の承認の矛盾は揚棄され、」「自由と承認の葛藤は調和へともたらされ、」などでも可。
- × 「自由と承認の葛藤」「止揚」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- ③ 「真の自由を手にすることができるようになるということ。」「の要素に1点。」
- 「本当の意味での自由を達成できるようにすること。」「真の自由を手に入れることができるようになるということ。」「などでも可。
- × 「真の自由を手にする」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

□ 現代文（小説）採点基準（合計35点）

問一 9点

（模範解答例）

A①〇一点

A②〇一点

恋人である隆志が一人で旅行に出かけたいというのは 一人になりたいということだ

A③〇一点

から、見捨てられているような気になるし、

B①〇一点

B②〇一点

おまけに別に理由はないと言われては 自分の存在が無視されている感じがするので、

Xへ分析〓分けること〓〇一点

C①〇一点

C②〇一点

せめて理由を説明してもらうことで 隆志の恋人であるという自負心を幾分か回復した

Yへ総合〓まとめること〓〇一点

いという心情。(9点)

【構造点】

・Xは、傍線部の美沙の心情を、条件A、Bの〈矛盾〉しない二つのそれらにへ分析〓分けること〓して説明する構造への評価である。ここでは、条件A、B内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして一点加点。

Xへ分析〓分けること〓 Aの要素+Bの要素 〇一点

・Yは、条件A、Bの心情をまとめて、美沙の心情をCへとへ総合〓まとめること〓する構造への評価である。ここでは、条件A、B、C内の要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして一点加点。

Yへ総合〓まとめること〓 Aの要素+Bの要素+Cの要素 〇一点

「ちなみに、X、Yは、解答解説に記した構造(Xへ分析〓分けること〓)を分解して、採点項目としている。」

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また各条件内の要素同士においても、原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「恋人である隆志が一人で旅行に出かけたいというのは一人になりたいということだから、見捨てられているような気になるし、」(3点)

※ 傍線部の心情を説明するための一方の条件。

① 「恋人である隆志が一人で旅行に出かけたいというのは」の要素に1点。

○ 「恋人の隆志が一人で旅行に行きたいというのは」「隆志が自分をおいて一人旅行をしたいということは」などでも可。

× 「(恋人の)隆志」「一人で旅行に出かけたい」の二成分のニュアンスがそろっていなければ×0点。

② 「一人になりたいということだから、」の要素に1点。

○ 「一人でありたいということなので、」「自分といるのを望んでいないということだから、」などでも可。

× 「一人になりたい」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「見捨てられているような気になるし、」の要素に1点。

○ 「うち捨てられているような感じがするし、」「放っておかれているような気がするし、」などでも可。

× 「見捨てられている」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「おまけに別に理由はないと言われては自分の存在が無視されている感じがするので、」(2点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉しない他方の条件。

① 「おまけに別に理由はないと言われては」の要素に1点。

○ 「その理由はないと言われたのでは」「別に理由などないとまで言われては」などでも可。

× 「理由はないと言われる」のニュアンスが入っていないければ×0点。

② 「自分の存在が無視されている感じがするので、」の要素に1点。

○ 「自分の存在が消去されているような気がするので、」「まったく無視されているような気になるので、」などでも可。

× 「無視されているような感じ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「せめて理由を説明してもらうことで隆志の恋人であるという自負心を幾分か回復したいという心情。」(2点)

※ A、Bから引き出される美沙の心情をまとめて結論づける条件。

① 「せめて理由を説明してもらうことで」「の要素に1点。

- 「理由を説明してもらえらるならば」「理由を説明してもらえさえすれば」なども可。
- × 「理由を説明してもらう」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。
- ② 「隆志の恋人であるという自負心を幾分か回復したいという心情。」の要素に1点。
- 「隆の恋人としてのプライドをなんとか維持したいという心情。」「隆志の恋人という自信をいくらかでも取り戻したいという心情。」などでも可。
- × 「恋人であるという自負心」「回復」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

(模範解答例)

A①〇一点

A②〇一点

母が自分でも年を取ったという自覚があるらしく、

父母で暮らすには広すぎるので

A③〇一点

家売って、駅近くのマンションでも買おうかなんて言っているのを聞き、

B①〇一点

B②〇一点

自分の生家売って欲しくないと思ひ、

弟の隆志が結婚するにせよ、しないにせよ、

B③〇一点

家から通勤するように仕向けて、

B④〇一点

Xへ分析し分けること〇一点

売らせないようにしたかったから。(8点)

【構造点】

・Xは、傍線部について、「姉」が「隆志」に会いに来た理由を、A、Bの〈因果関係〉を構成する〈矛盾〉しない二条件に〈分析し分けること〉として説明する構造への評価である。ここでは条件A、B内の要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加点。

Xへ分析し分けること Aの要素+Bの要素〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内では要素同士においても、原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(1点)

A 「母が自分でも年を取ったという自覚があるらしく、父母で暮らすには広すぎるので家売って、駅近くのマンションでも買おうかなんて言っているのを聞き、」(3点)

※ 傍線部について、「姉」が「隆志」に会いに来た理由を説明する〈因果関係〉の〈因〉の条件。

① 「母が自分でも年を取ったという自覚があるらしく、」の要素に1点。

○ 「年を取ったという自覚のあるらしい母が、」「母が年を取ったことを自覚させたいなのか、」などでも可。

- × 「母」「年をとったという自覚」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- ② 「父母で暮らすには広すぎるので家を売って、」の要素に1点。
 - 「両親だけで暮らす大きい家を売って、」両親だけで住むには広すぎる家なので売却して、」などでも可。
 - × 「(父母で暮らすには)広すぎる」「家を売る」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- ③ 「駅近くのマンションでも買おうかなんて言っているのを聞き、」の要素に1点。
 - 「駅のそばのマンションを買うような発言をしたのを聞いて、」駅近くにマンションを勝って引越そうかなどと言ったのを聞きつけて、」等でも可。
 - × 「駅近くのマンションを買う」「(姉)が(聞く)の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

B 「自分の生家を売って欲しくないと思い、弟の隆志が結婚するにせよ、しないにせよ、家から通勤するように仕向けて、売らせないようにしたから。」(4点)

※ 傍線部について、「姉」が「隆志」に会いに来た理由を説明する〈因果関係〉の〈果〉の条件。

- ① 「自分の生家を売って欲しくないと思い、」の要素に1点。
 - 「自分の実家が売られてなくなるのは嫌だと思い、」生家が売られてしまうのに抵抗したい気持ちがあって、」などでも可。
 - × 「生家が売られる」「抵抗」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。
- ② 「弟の隆志が結婚するにせよ、しないにせよ、」の要素に1点。
 - 「弟の結婚に絡められるにせよ、絡められないにせよ、」「弟の隆志の結婚に関係づけられる、られないにかかわらず、」などでも可。
 - × 「弟の(隆志)の結婚にかかわらず」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ③ 「家から通勤するように仕向けて、」の要素に1点。
 - 「実家から通勤させるようにして、」「家から会社に通うようにさせて、」などでも可。
 - × 「家から出勤させる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ④ 「売らせないようにしたかったから。」の要素に1点。
 - 「売るのを思い留まらせたかったから。」「売るのを阻止したかったから。」などでも可。
 - × 「売らせないようにしたかった」のニュアンスが入っていないければ×0点。

問三 9点

(模範解答例)

A①〇一点

静かに風が吹き抜けていく、誰もいない山頂に立って、

A②〇一点

気恥ずかしさのために「ヤ

ッホー」叫ぶのは止めたが気分はよく、

B①〇一点

B②〇一点

深呼吸するリズムと、

壮大な景色のリズムとがびったりとあっているのが分り、

C①〇一点

C②〇一点

物言わぬ自分と自然とが一体になって、

雲を置き去りにして動いている雄大さを

Xへ分析し分けること〇一点

感じるという

D〇一点

Yへ総合しまとめること〇一点

爽快な気持ち。(9点)

【構造点】

・Xは、条件Aの心情を、条件B、Cの〈因果関係〉にある二つの心情の内容に〈分析し分けること〉して説明する構造への評価である。ここでは条件A、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして一点加点。

Xへ分析し分けること〇 Aの要素+Bの要素+Cの要素 〇一点

・Yは、条件B、Cを、条件Dに〈総合しまとめること〉する構造への評価である。ここではB、Cの要素がそれぞれ一つ以上あり、加えてDがあれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして一点加点。

Yへ総合しまとめること〇 Bの要素+Cの要素+D 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件A、B、C内では要素同士においても、原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、要素と条件を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「静かに風が吹き抜けていく、誰もいない山頂に立って、気恥ずかしさのために『ヤツホー』叫ぶのは止めたが気分はよく、」(2点)

※ 傍線部の心情をまずは概括的に捉えた条件。

① 「静かに風が吹き抜けていく、誰もいない山頂に立って、」の要素に1点。

○ 「静かな山頂で風に吹かれるままに、」誰もいない静かな山頂に立って」などでも可。

× 「静かな山頂で」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

② 「気恥ずかしさのために『ヤツホー』叫ぶのは止めたが気分はよく、」の要素に1点。

『ヤツホー』と叫んでみようかと思ったが、気恥ずかしくなってやめたものの気分は良く、』『ヤツホー』と叫ぶのは恥ずかしくて止めたが気分は上々で、」

× 『ヤツホー』と叫ぶのは恥ずかしい」「気分はよく」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

B 「深呼吸するリズムと、壮大な景色のリズムとがぴったりとあっているのが分り、」(2点)

※ Aの内部に入り込んで説明する〈因果関係〉の〈因〉の条件。

① 「深呼吸するリズムと、」の要素に1点。

○ 「自分の深呼吸のリズムと、」深呼吸の律動と、」などでも可。

× 「深呼吸のリズム」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「壮大な景色のリズムとがぴったりとあっているのが分り、」の要素に1点。

○ 「雄大な景色のリズムとが符合しているに気づき、」「壮大な景色の律動と一致しているのが自覚され、」などでも可。

× 「壮大な景色のリズムとの一致」「分かる」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

C 「物言わぬ自分と自然とが一体になって、雲を置き去りにして動いている雄大さを感じるという」(2点)

※ Aの内部に入り込んで説明する〈因果関係〉の〈果〉の条件。

① 「物言わぬ自分と自然とが一体になって、」の要素に1点。

○ 「ともに物言わぬ自分と自然が一体化して、」「自分と自然という物言わぬ同士が一緒になって、」などでも可。

× 「物言わぬ自分と自然」「一体化」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「雲を置き去りにして動いている雄大さを感じるという」の要素に1点。

○ 「雲の動きとは逆に動いている雄大さを感じるという」「動かぬ雲を後方に追

いやるような雄大さを感じるという」などでも可。

× 「雲を置き去りにして動く」「雄大さを感じる」の二成分のニュアンスがそろっていなければ×0点。

D 「爽快な気持ち。」(1点)

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

○ 「さわやかな気持ち。」「すがすがしい気持ち。」等でも可。

× 「爽快」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問四 9点

(模範解答例)

A①〇一点

窓の外の空と森の景色には何も無いともいえるし、すべてがあるともいえる。言わ

A②〇一点

A③〇一点

ば何も言いたいことのない景色であり、だからこそ美しいのだろうと感じ、

B①〇一点

B②〇一点

その景色が目に入るダイニングで 木片を彫刻することで、

Xへ分析〓分けること〓〇一点

C①〇一点

C②〇一点

その物言わぬ自然の景色と 無言のままにつながっていたという気持ちになっていたか

ら。 Yへ総合〓まとめること〓〇一点

ら。(9点)

【構造点】

・Xは、傍線部の理由説明を、Aの〈客体〓景色〉とBの〈主体〓隆志〉の〈矛盾〉しない二条件に〈分析〓分けること〉として求めていこうとする構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つずつあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加算。

Xへ分析〓分けること〓 Aの要素+Bの要素 〇一点

・Yは、条件A、BをCに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件A、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして一点加算。

Yへ総合〓まとめること〓 Aの要素+Bの要素+Cの要素 〇一点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また各条件内では要素同士において、部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「窓の外の空と森の景色には何も無いともいえるし、すべてがあるともいえる。言わば何も言いたいことのない景色であり、だからこそ美しいのだろうと感じ、」(3点)

※ 傍線部の理由説明のための〈客体Ⅱ風景〉の側の条件。

① 「窓の外のと森の景色には何も無いともいえるし、すべてがあるともいえる。」の要素に一点。

○ 「窓の外のと森には何も無いとも、すべてがあるともみなせる。」窓の外のと森の景色はすべてを含んでいるとも、何ら見るべきものはないとも言える。」なども可。

× 「窓の外のと森の景色」「何も無いとも、すべてがあるとも言える」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「言わば何も言いたくない景色であり、」の要素に一点。

○ 「つまり言いたくないことが何も無い景色であり、」「言わば言いたくないことを持たない自足した景色であり、」なども可。

× 「何も言いたくないことのない」「景色」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

③ 「だからこそ美しいのだろうと感じ、」の要素に一点。

○ 「それが美しい理由なのだと思い、」「それゆえ美しく感じられるのだと納得し、」なども可。

× 「美しいと感じる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「その景色が目に入るダイニングで木片を彫刻することで、」(2点)

※ 傍線部の理由説明のための〈主体Ⅱ隆志〉の側の条件。

① 「その景色が目に入るダイニングで」の要素に一点。

○ 「それらが見えるダイニングで」「それらの景色を望めるダイニングで」なども可。

× 「その景色が見える」「ダイニング」の二成分のニュアンスがそろっていないければ×0点。

② 「木片を彫刻することで、」の要素に一点。

○ 「木片彫刻を継続することで、」「木片を彫ることによって、」なども可。

× 「木片を彫刻」のニュアンスの要素が入っていないければ×0点。

C 「その物言わぬ自然の景色と無言のままにつながっていたという気持ちになっていたから。」(2点)

※ B、Cをまとめて隆志の心情を結論づける条件。

① 「その物言わぬ自然の景色と」の要素に一点。

○ 「その無言の景色と」「それらの沈黙した景色と」なども可。

× 「物言わぬ景色」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「無言のままにつながっていたという気持ちになっていたから。」の要素に一点。

○ 「物言わぬままに結び合っていたいと感じたから。「沈黙のなかに絆を感じていなかったから。」「などでも可。

× 「無言」「つながっていたい気持ち」の二成分のニュアンスがそろっていなければ×〇点。

目 (古文『紫式部日記』) 採点基準

※ 40点満点

問一 (ア) 傍線部の語の意味を述べなさい。

基準 配点 2点

「傍線部」 A2うつろひ

「模範解答」 A2色変わりし

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】 うつろひ ↓ 色変わりし

※「解答形式」 解答例のように「た・ている」に続く形での解答でも、「色変わりする」のような言い切りの形での解答でもよい。

※「色つき・色づく」でもよく、また「色あせ・色あせる」でもよしとする。

※解答の末尾の句読点の有無は不問。

問一（イ） 傍線部の語の意味を述べなさい。

基準 配点 2点

〔傍線部〕 A 2 げに

〔模範解答〕 A 2 本 当 に

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

〔ポイント〕

要素A【2点】げに ↓ 本 当 に

※「解答形式」 副詞なので、連用修飾の形で解答されていなくてはならない。つまり「本当の」な
どは【0点】。

※「まことに・まさしく・なるほど」などでもよい。

※解答の末尾の句読点の有無は不問。

問一(ウ) 傍線部の語の意味を述べなさい。

基準 配点 2点

「傍線部」 A 2 思はずに

「模範解答」 A 2 思いがけず

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】思はずに ↓ 思いがけず

※「解答形式」 「思いがけない・思いがけないことだ」など言い切りの形の解答は【1点】。

※「思いがけずに・思いがけなく・思いがけなくも・思いがけないことに」などでもよい。

※解答の末尾の句読点の有無は不問。

問二 (一) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 4点

〔傍線部〕 A―思ふことのB―少しもC―のめなるD―身ならましかば
〔模範解答〕 A―思い悩むことがB―少しでもC―世間並のD―身であったならば

採点方法 基本的には各要素単独採点。ただし、「条件」がある場合は、それに従って下さい。
字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

〔ポイント〕

要素A【一点】思ふことの ↓ 思い悩むことが

※「悩みが・心配が・心配事が・物思いが」などでもよい。

※「思う事が」は【0点】。

要素B【一点】少しも ↓ 少しでも

※「条件」 Cが【0点】の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で【0点】になっている場合は得点できる。

要素C【一点】のめなる ↓ 世間並の

※「人並みの・普通の・平凡な・ありふれた」などでもよい。

※「世間並の深さの」のような表現でも、「思い悩み」が「世間並」であることがわかる表現であればよしとする。

要素D【一点】身ならましかば、 ↓ 身であったならば、

※「身ならば・身なら」でもよしとする。

※「身」は「自分・私」でもよい。

※「身」が「内容・中身」などとなっている場合は【0点】。

※仮定表現になっていない場合は【0点】。

問二 (2) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 4点

〔傍線部〕 A―いかでB―今はなほC2もの忘れしなむ、

〔模範解答〕 A―何とかしてB―今はやはりC2忘れてしまおう

採点方法 各要素単独採点。

字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

〔ポイント〕

要素A【1点】いかで ↓ 何とかして

※「どうにかして・何とか」でもよい。

※「どうして・なぜ・どのように・どれほど」などは【0点】。

要素B【1点】今はなほ ↓ 今はやはり

※「今は」と「やはり」の両方がなくてはならない。いずれかがない場合は【0点】。

※「今は」は「今となっては・もう」でもよい。

要素C【2点】もの忘れしなむ ↓ 忘れてしまおう

※「忘れ」が「ものを忘れ」となっている場合は【0点】(要素Cでの加点なし)。

※「忘れる」+意志「〜しよう」ができていて【1点】。

※右の【1点】が得点できていて、完了「〜してしまふ」、もしくは強意「ぜひ・どうしても・何が何でも」等があれば、さらに【1点】。

問二 (3) 傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 4点

〔傍線部〕 A1腰折れたることB1やC2書きまぜたりけむ
〔模範解答〕 A1拙い歌をC2書き入れたのだったろうB1か

採点方法 基本的には各要素単独採点。ただし、「条件」がある場合は、それに従って下さい。
字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

〔ポイント〕

要素A【1点】腰折れたること ↓ 拙い歌を

※「拙い」は「下手な・へたくそな・上手でない」などでもよい。

要素B【1点】や ↓ か

※「条件」 Cが【0点】の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で【0点】になっている場合は得点できる。

※解答の文末が「るか」と疑問文になっていけばよい。

要素C【2点】書きまぜたりけむ ↓ 書き入れたのだったろう

※「書き入れ」は、「書き込む」や、「書きまぜる(書き混ぜる)」のままでもよい。

※「書き入れ」が単に「書く」となっている場合は、左方に記してある◇で採点して下さい。

※「書き入れ・書き込み・書き混ぜ」+完了「くた・くしまった・くっていた」ができていて【1点】。

※右の【1点】が得点できていて、過去推量「くた(の)だろう・くた(の)でしよう」があれば、さらに【1点】。

◇「書き入れ」が「書く」となっている場合は、

「書く」+完了「くた・くしまった・くっていた」ができている上に、過去推量「くた(の)だろう・くた(の)でしよう」があつて【1点】。

例 書いたのだろう【1点】 書いた【0点】

問三 傍線部について、何と、何が、どういう点で思いよそえられるというのか、説明しなさい。

基準 配点 7点

〔傍線部〕 思ひよそへらる

〔模範解答〕 A2水鳥と、作者が、B2心のままに平然と過ごしているように見えて、C3実際には人知れず苦しんでいる点。

採点方法 基本的には各要素単独採点。ただし、「条件」がある場合は、それに従って下さい。
字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

文末が「点」になく「こと」になっている場合は、全体の点(全要素の合計点)から、マイナス【1点】。

文末が「点」や「こと」以外である場合は、全体の点(全要素の合計点)から、マイナス【2点】。

〔ポイント〕

要素A【2点】水鳥と、作者が、

※「条件」 BもCも【0点】の場合は得点できない。ただし、誤字等の減点で【0点】になっている場合は得点できる。

※「水鳥」と「作者」の書かれ方は順不同。

※「水鳥」ができていない場合は【0点】(要素Aでの得点なし)。

※「作者」は「筆者・紫式部・式部」でもよい。

※「作者」が「自分」となっている場合は【1点】。

要素B【2点】心のままに平然と過ごしているように見えて、

※「　」しているように見える・　しているように振る舞う」のような、それが実際でないことが分かる表現でない場合は【0点】(要素Bでの得点なし)。

※「心のままに過ごすように見えて・楽しく過ごすように見えて」の意があれば【1点】。「華やかである」は得点できない。

同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

ただし、この表現が「水鳥」か「作者」の片方にしか係っていない場合は【0点】。

※「平然としているように見えて・悩みもないように見えて・何事もなく(平穩無事に)過ごすように見えて」の意があれば【1点】。

同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

ただし、この表現が「水鳥」か「作者」の片方にしか係っていない場合は【0点】。

要素C【3点】実際には人知れず苦しんでいる点。

※「人知れず」の有無は不問。

※「苦しんでいる」は「思い悩んでいる・つらく感じている」などでもよい。これができて【2点】。

同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

※右の「苦しんでいる」ができていて上で、「実際には」ができていればさらに【1点】。

※「実際には」は「実際は・実は・本当は」などでもよい。

同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

問四 傍線部の「雲間なく」は二つの状態を意味しています。その両方の意味を示しながら傍線部を現代語訳しなさい。

基準 配点 5点

〔傍線部〕 C1 (ABを含む全体) A2雲間なく B2ながむる空

〔模範解答〕 A2心の晴れ間もなく B2ぼんやりと物思いにふけて C1見る、雲の晴れ間のない空

採点方法 基本的には各要素単独採点。ただし、「条件」がある場合は、それに従って下さい。
字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

現代語訳問題なので、「空」で終わっているべきである。「空」がない場合は要素Cの採点法に従い、要素Cが0点となる。

「空」はあるが「空の状態・空の様子」など余計な表現が付いている場合は、全体の点(全要素の合計点)から、マイナス【1点】。

〔ポイント〕

要素A【2点】雲間なく ↓ 心の晴れ間もなく

※「心が晴れない」の意があればよい。

同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

※「晴れない」の意は「空も心も晴れない」のように要素Cと一括になってもよい。

要素B【2点】ながむる ↓ ぼんやりと物思いにふけて

※「物思いにふける・物思いに沈む・思い悩む」などの意があれば、「ぼんやり」がなくても【2点】。

※「物思いにふける・物思いに沈む・思い悩む」などの意がなく、「ぼんやり」がある場合は【1点】。

要素C【1点】雲間なくながむる空 ↓ 見る、雲の晴れ間のない空

※「雲がないのを見る(眺める)空」・「雲がない空を見る(眺める)」の意があれば【1点】。

※「雲がない」・「見る(眺める)」・「空」のいずれかの意が欠けている場合は【0点】(要素Cでの得点なし)。

例 雲の晴れ間がない空 【0点】 ※「見る(眺める)」がないから。

問五 傍線部の歌の内容とそこに込められた作者の心情を説明しなさい。

基準 配点 10点

「傍線部和歌」 ことわりの時雨の空は雲間あれどながむる袖ぞかわく間もなき

「模範解答」 A2時雨が降る空にも雲の晴れ間はあるというのに、B5自分は、出家を望みつつ俗世に留まっていることに思い悩み続けて、つらさのためにC3流す涙が乾く時がない。

採点方法 基本的には各要素単独採点。ただし、「条件」がある場合は、それに従って下さい。
字数 指定なし。

解答形式 句読点の有無や位置については不問。

心情の説明として成立していれば文末表現はどのようであってもよい()という悲しい心情などの有無は不問。

「ポイント」

要素A【2点】時雨が降る空にも雲の晴れ間はあるというのに、

※「ことわりの時雨」についての、注に書かれている「時節がら降るのが当然の」という説明の有無は不問。

※「時雨が降る空」は「時雨の空」でもよい。

※「雲の晴れ間はある」は「時雨がやむ時はある」という内容でもよい。

※「時雨の空も晴れることはある」、または「時雨もやむときはある」の意があれば【1点】。

同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

※右の【1点】が得点できている上に、次へのつなぎ目が逆接「のに・が・けれど(も)」などに成っていればさらに【1点】。

要素B【5点】自分は、出家を望みつつ俗世に留まっていることに思い悩み続けて、つらさのために

※◇「思い悩み続けて、つらさのために」は、「思い悩む(悩む・物思いにふける・物思いに沈む)か「つらい」のいずれかの意があればよい。

これがあれば【2点】。

※◇の【2点】が得点できている上で、「自分・私」という主体が明らかであれば、さらに【1点】。

「自分の袖・私の涙」のような書かれ方でもよい。

※◇の【2点】が得点できている上で、「俗世に留まっていることに」、もしくは「出家できないことに」の意があれば、さらに【2点】。

「俗世に留まっていることに」があれば、「出家を望みつつ」の有無は不問。

「出家できないことに」があれば、「俗世に留まっている」の有無は不問。

要素C【3点】流す涙が乾く時がない。

※「涙が乾かない・涙が止まらない」の意があればよい。

「涙」という表現がない場合は0点(要素Cでの得点なし)。「袖」という表現の有無は不問。
同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

■形式上の不備

- ・「すべてひらがなで」という条件を満たしていないものは全体不可(問一＝0点)。
- ・仮名づかいは現代仮名づかいても歴史的かなづかいかいでも可。
- ・現代仮名づかいと歴史的仮名づかいを混用していても可。
- ・ただし、歴史的仮名づかいの誤り(解答者は歴史的仮名づかいで書いたつもりだが、それが誤っているもの。たとえば、「良医(りやうい)」を「りやうゐ」としたり、「兵(へい)」を「へひ」としたりしているとき)は、誤り一カ所につき1点減点。
- ・句点の有無は不問

基準 配点：5点

■傍線部をひらがなで書き下し文にする問題

■模範解答

A

りよ(や)ういのくすりをもちう(ふ)るは、

B

なお(ほ)りよ(や)うしよ(や)うのへいをもちう(ふ)るがごとし。

■採点方法：各要素単独採点

■要素A「良医之用薬」の読み方 りよういのくすりをもちうるは：2点

- ・「もちうる」は、「もちい(ぬ)る」も可とする。
- ・「りようい(りやうい)」「の」「よ・や」を大文字で「りようい(りやうい)」「としているものも可。
- ・「くすり」を「やく」としているものは、**要素A 1点減点。**
- ・他は一カ所でも誤りがあれば、**要素A不可(A＝0点)**

■要素B「猶良将之用兵」の読み方 なおりようしよのへいをもちうるがごとし：3点

- ・「もちうる」は「もちい(ぬ)る」も可とする。
- ・「りようしよ(りやうしよ)」「の」「よ・や」を大文字で、「よ」「や」としているものも可。
- ・「もちうるがごとし」を、「が」を書かずに「もちうるごとし」としているものも可。
- ・他は一カ所でも誤りがあれば、**要素B不可(B＝0点)**

大問四 問二

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照
- ・句点の抜けは不問。

基準 配点…9点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B A・B C
D 医師の薬の用い方と、將軍の兵の用い方の 善し悪しによって、人が生きるか死ぬか、
E

国が戦争に勝って存続するか、戦争に負けて滅亡するかが 分かれるということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 医師の「吉凶」の差を生む要因 医師の薬の用い方によって…2点

- ・「医師」は「医者」も可。
- ・「薬の用い方」に触れていれば可。
- ・「薬の用い方によって」「薬をどのように用いるかによって」「薬を正しく用いるかどうかによって」なども可。
- ・「医師（医者）」がない場合は、**要素A 1点減点。**
- ・「薬の用い方」の要素がない場合は、**要素A 1点減点。**

■要素B 将の「吉凶」の差を生む要因 將軍の兵の用い方によって…2点

- ・「將軍」は「将」も可。
- ・「兵の用い方（用兵）」に触れていれば可。
- ・「將軍（将）」がない場合は、**要素B 1点減点。**
- ・「兵の用い方」の要素がない場合は、**要素B 1点減点。**
- たとえば、「作戦」「戦い方」のように「兵」の要素がないものも、**要素B 1点減点。**

■要素A・BとC以下をつなぐ表現は、A・BがC以下の要因「原因」であることが示せていれれば可。「善し悪し」の有無は問わない。たとえば、「医師の薬の用い方と將軍の兵の用い方で」「〜が原因で」「〜を要因として」なども可。A・BがCの要因であることが明確でない表現である場合は1点減点。

■要素C 人の「吉凶」の具体化 人が生きるか死ぬか…2点

- ・「人の生死」「人が生きられるかどうか」「人の命が助かるかどうか」なども可。

- ・「人」は「患者」としても可。
- ・「人（人間・患者）」がないものは、**要素C 1点減点**。
- ・「病気が治るかどうか」という意味のみで、「生死」「命が助かるかどうか」に触れていないものは、**要素C 1点減点**。

■要素D 国の「吉凶」の具体化 国が存続するか滅びるか…2点

- ・国が存続するか滅びるか」「滅びるかどうか」「存亡」の意味であれば可。
- ・「**存続**」のみ（例「**国の存続が**」）は不可（**要素D 0点**）
- ・「国が戦争に勝つか負けるか」「国が戦争に勝てるかどうか」のみでも可とする（要素D 2点）。
- ただしその場合「戦争（戦）」の要素がなく、単に「勝つか負けるか」である場合は、**要素D 1点減点**。
- ・「国（国家）」の要素がないものは、**要素D 1点減点**。

■要素E 「分」の説明 分かれる…1点

- ・「分かれる」「決まる」「左右する」の意味であれば可。
- ・単に「**関係する**」意の場合は不可（**要素E 0点**）。この文章では、医者と將軍によって生死と存亡が「分かれる（決まる）」としている。
- ・「分かる（知ることができる・理解できる）」の意の答えは**不可**（**要素E 0点**）。

■要素F 文末が「こと」「意味」などになっていなければ、1点減点。

- その他 各要素の順番が模範解答と異なる「医者」の用い方によって人の生死が決まり、將軍の兵の用い方によって国の存亡が分かれるということ」のような解答も可。

大問四 問三 5点

■形式上の不備

- ・返り点以外（送り仮名など）を一カ所でも書いている場合は、返り点が正しくても、問三全体不可（問三〓0点）

基準 配点：5点

■白文に返り点をつける問題

■模範解答

A
不_下得_レ其_レ良_一而_レ用_レ之_レ、

B
是_レ以_レ人_一与_レ国_一棄_レ也。

■採点方法：各要素単独採点

■要素A 不_下得_レ其_レ良_一而_レ用_レ之_レ、：2点

- ・解答例のみ正解。一カ所でも誤りがあれば要素A不可（A〓0点）

■要素B 是_レ以_レ人_一与_レ国_一棄_レ也。：3点

- ・解答例のみ正解。一カ所でも誤りがあれば要素B不可（B〓0点）

大問四 問四

■形式上の不備

- ・句点の抜けは不問

基準 配点…6点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A B

慎重に行わ なくてよいだろうか、いや、慎重に行わなければならない。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「慎(つつしム)」の解釈 慎重に行わ(う)…2点

- ・「慎重に行う」「慎重にする」「慎重になる」「注意深くする」「気をつける」の意味にとれる表現であれば可。

・そのまま「慎む(つつしむ)」としているものは、**要素A不可(要素A〓0点)**。

■要素B 「可不々乎(々ざるべけんや)」の解釈

々なくてよいだろうか、いや、慎重に行わなければならない。…4点

- ・「々なくてよいだろうか」がなくても、「々なければならぬ」「々べきだ」があれば可。
- ・「々なくてよいだろうか、いや、よくない」も可。
- ・「々なくてよいだろうか」のみで、「々なければならぬ」がない場合は**要素B 1点減点**。
- ・「可」を許容(してよい)でなく、可能で解釈している場合は、**要素B 1点減点**。
たとえば、「慎まないことができようか、いや、慎まないことはできない」「
「慎まないでいられようか、いや、慎まずにはいられない」など。

■形式上の不備

- ・文末表現は不問
- ・句点の抜けは不問

基準 配点…10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 薬は適切に用いれば病気を治すことができるが、用い方を誤るとかえって患者を殺すことに
な

C D
るし、兵も適切に用いれば敵を殺すことができるが、用い方を誤るとかえって自国を滅ぼす
こ

とになるということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 薬の効用 適切に用いれば病気を治すことができる…2点

- ・「適切に用いる(使い方が適切である)」「正しく用いる(使い方が正しい)」という要素がなければ要素A 1点減点。
- ・「病気を治すことができる」「患者の命を救う」という要素がなければ要素A 減点1点。
- ・「病気を殺す」という表現の場合は要素A 1点減点。

■要素B 薬の危険性 用い方を誤ると患者を殺す…3点

- ・「用い方を誤る(誤った使い方をする)」「不適切に用いる(使い方が不適切)」という要素がなければ要素B 1点減点。
- ・「患者(人)を殺す」要素がなければ要素B 2点減点。
- ・「病気を治すことができない」意の表現の場合は要素B 1点減点。

■要素C 兵の効用…適切に用いれば敵を殺すことができる…2点

- ・「適切に用いる(使い方が適切である)」「正しく用いる(使い方が正しい)」という要素がなければ要素C 1点減点。
- ・「敵を殺す(倒す)」「戦争に勝つことができる」「国の存続に役立つ」という要素がなければ要素C 減点1点。

■要素D 兵の危険性 用い方を誤ると国を滅ぼす…3点

- ・「用い方を誤る（誤った使い方をする）」「不適切に用いる（使い方が不適切）」という要素がなければ**要素B 1点減点**。
- ・「国を滅ぼす（国が減びる）」要素がなければ**要素B 2点減点**。
- ・「戦争に負ける」意の表現の場合は**要素B 1点減点**。

■その他

- ・次のような解答の書き方も可とする。
「薬も兵も、適切に用いれば人の命を救い敵を殺すことができるが、用い方を誤ると人を殺し国を滅ぼすことになる」と